

結核研究所 所内研修 シラバス(医師・対策コース)

1	コース名	医師・対策コース			
2	コース責任者	対策支援部 企画・医学科			
3	期間	第1回 2024年6月18日～21日 第2回 2024年11月5日～8日(Web)			
4	対象	保健所等行政に携わる医師			
5	概要	結核の基礎知識の習得、最新の知識・技術および情報など			
6	目的・目標	<p>目的: 行政の結核業務に必要な知識や技術を習得する</p> <p>到達目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 結核の診断(菌検査、胸部X線写真等)や治療(LTBI含む)を理解する。 結核に関連する法律や結核登録者情報システムの概観を理解する。 結核の疫学を理解する。 結核の療養支援を理解する。 接触者健診の強化方法を理解する。 外国出生患者に関わる情報を理解する。 			
7	講義計画	講義科目	時間(分) <small>※変更する場合有り</small>	講師 <small>※変更する場合有り</small>	講義内容
	基礎	保健所における結核対策	180	所長	結核の統計や関係する法律等
		肺結核の画像診断	150	複十字病院	菌の性質や菌に対する免疫反応、解剖や病理を踏まえた上の肺結核の画像など
		胸部X線写真読影(演習)／結核の画像所見と鑑別診断の目安	180	総合健診推進センター	読影の演習及び肺結核と肺結核と鑑別を要する画像の読影
		抗酸菌検査の役割	90	抗酸菌部	個々の検査に加え、検査をするタイミング、検査に関連する内容を踏まえた上の検査の役割
		結核菌の分子疫学	90	抗酸菌部	分子疫学の前提条件や方法、活用の仕方、分子疫学情報の応用事例
		結核の治療	140	企画・医学科	薬剤耐性や化学療法の原因と結核医療の基準等
	知識・技術および情報など	結核の療養支援	90	保健看護学科	療養支援に関する技術や実際
		IGRAと免疫／途上国での結核対策	90	副所長	免疫の基礎やヒトの結核菌に対する反応、IGRA検査の基本的な内容から研究レベル／途上国の対策の日本との違いや外国出生者の背景
		結核の疫学／BCG	210	対策支援部	疫学の基礎と様々な危険因子などの結核の疫学／BCGの歴史や有効性、副反応等とコホ現象
		接触者健診の強化	180	対策支援部	接触者健診の基本と集団発生事例演習
		院内感染対策	120	企画主幹	感染源や接触の度合い等を踏まえた上の院内感染対策と院内感染事例等
		結核サーベイランスの活用	60	臨床・疫学部 疫学情報室長	結核登録者情報システムの概観とデータの活用の実際
		合計(分)休憩等含まず	1580		
8	参考資料	<p>結核診療ガイドライン(改訂第3版) (日本結核・非結核性抗酸菌症学会の学会員専用ページの結核診療ガイドラインから、PDFファイルが無料でダウンロード可)</p> <p>小児結核診療のてびき(改訂版) https://jata.or.jp/dl/pdf/data/syouni_tebiki_202103.pdf</p> <p>日本結核学会治療委員会: 「結核医療の基準」の改訂—2018年. 結核. 2018; 93: 61-68. https://www.kekkaku.gr.jp/pub/vol93%282018%29/vol93no1p61-68.pdf</p> <p>結核医療の基準(厚生労働省, 令和3年10月18日改正) https://jata.or.jp/dl/pdf/law/2021/TB_medi_kaisei_R03.10.18.pdf</p> <p>日本結核・非結核性抗酸菌症学会治療委員会: 本邦での多剤耐性結核治療に対する考え方. 結核. 2020; 95: 79-84. https://www.kekkaku.gr.jp/pub/pdf/MultidrugResistantTuberculosisTreatment.pdf</p> <p>日本結核学会予防委員会・治療委員会: 潜在性結核感染症治療指針. 結核. 2013; 88: 497-512. https://www.kekkaku.gr.jp/pub/Vol.88(2013)/Vol88_No5/Vol88No5P497-512.pdf</p> <p>日本結核・非結核性抗酸菌症学会予防委員会・治療委員会: 潜在性結核感染症治療レジメンの見直し. 結核. 2019; 94: 515-518 https://www.kekkaku.gr.jp/pub/vol94(2019)/vol94no10p515-518.pdf</p> <p>日本結核・非結核性抗酸菌症学会治療委員会: イソニコチン酸ヒドラジドが使用できない場合の結核治療について. 結核. 2022; 97: 125-127 https://www.kekkaku.gr.jp/wp-content/uploads/2022/03/no2_march-april_P125-130.pdf</p>			
9	備考	原則、全コースの参加をもって修了証を発行する。			